

【新聞活用学習】全校研究 / 小学6年生・音楽科

詩と音楽の関わりを味わおう

～新聞記事から滝廉太郎・高野辰之の日本歌曲の理解を深める学びを目指して～

指定校2年次 長野市立信州新町小学校 池内 克江

(1) 本年度のNIE活動の概要

昨年、NIE研究指定校1年目の実践で、6年生が、社会科で新聞に触れる機会を増やしたり、自分が興味を持った記事を読んで友だちに紹介したりして授業に生かすことを通し、自ら進んで考え、学び合う姿につなげることができた。指定校2年目の今年度は、その実践を生かし、音楽の授業で新聞記事から曲についての情報を得たり、人々の考えを知って自分なりに考えたりしながら曲への理解を深め、「音楽が人と人を結ぶ」学習につなげたいと考えた。6年生の学級では、毎朝の学級の時間等に日直当番が自分の選んだ記事を紹介する取り組みを継続していた。音楽専科の授業でも、新聞記事を取り入れた授業実践を行おうと考え、学級担任と専科が連絡を取り合って新聞社の出前授業をお願いし、学級で新聞記事の基本的な構成を学んだり、スクラップ作りを取り組んだりして、新聞に親しめる場を増やしていった。10月に行われた音楽会では、ホルストの組曲『惑星』の『木星（ジュピター）』を合奏。その曲の理解を深めるために、『木星』をアレンジして日本語の歌詞をつけた歌『Jupiter（ジュピター）』を取り上げた。『Jupiter』は新潟県中越地震の時に新潟県内のラジオ局に曲のリクエストが多く寄せられた。子どもたちはインターネットの情報や新聞の記事でそれを知り、自分なりの感想や演奏に対する思いを膨らませていった。日頃の学習で扱う曲についても、子どもたちの曲の理解をさらに深めていくために、新聞活用の在り方を追究していきたいと考えた。

(2) 本年度のNIEの取り組み状況（4月時点）

本校は全校児童89人、7学級ある。指定校1年目の昨年度から、児童が通る廊下に新聞を毎朝置き、児童の目に触れることができるようにしてきた。子ども新聞は以前から掲示してあり、時々立ち止まって読んでいる児童もいる。

本年度の研究授業学級は23人。新聞を購読していない家庭も多く、新聞に親しむ機会は少ない。学習に合わせて新聞を紹介してもらったり、自分の興味がある記事を選ぶ時間を確保したりして、新聞に触れる機会が多くなってくると関心を寄せる姿が見られるようになってきた。

(3) NIE活動の狙い（育てたい力）

全校研究テーマ

「自分の考えを伝え、学び合いができる子どもたちの育成 ～自己の考えを広げ、深める学びのある授業作り～」

(4) 全校での取り組み

昨年度は、児童一人一人の学力向上に向け、教師一人一人が日々の授業を見つめ、教師

も互いに学び合いながら指導力向上を目指し、「ねらいの明確化」に重きを置いてきた。N I Eに関わっては、教科学習の中で活用できそうな新聞があった場合に取り上げて活用してきた。1年生でも学んだ文字を新聞記事の中から探して○印を書き込んでいたり、学んだ言葉を探したりすることで活用を図ってきた。色々な場面で、新聞を活用した学習活動について追究している。

(5) 公開授業の活動内容

【学習指導案】第6学年・音楽科 専科 池内 克江

1 題材名 詩と音楽の関わりを味わおう

～滝廉太郎・高野辰之の日本歌曲を、新聞記事を活用して理解を深めよう～

2 題材について（児童の実態）

歌うことが楽しいと感じ、自分から進んで歌う児童もいるが、歌うことに自信が持てなかったり、恥ずかしい気持ちが先に立ってしまったりして、歌う楽しさを感じるまでに時間がかかる児童もいる。自分の意見を発表する時に恥ずかしさが先に立ってしまい、力を出し切れない児童もいる。曲を聴いた感想を「楽しい感じ」「悲しい感じ」といった大きなまとまりで捉える児童は多いが、表現されている様子や心情まで感じ取るのは、なかなか難しい傾向が見られる。

そのような中、子どもたちは、音楽会で演奏した『木星』の合奏の練習中に、曲のイメージを持ったり、様子を思い浮かべたりする場面で、歌詞を付けて歌った『Jupiter』の画像と歌声が一緒になっている映像を見た。また、『Jupiter』は新潟県中越地震の時に新潟県内のラジオ局に多くのリクエストが寄せられ、励まされた人がたくさんいた曲だと新聞の記事などで知った。それを基に書いた感想や演奏に対する願いとして、「地震で避難している時にリクエストが多いということは、元気づけられるものなので、聞いて元気が出る曲なんだと思った」「ぼくが生まれる前に、こんなこと（大きな地震）が起きていたんだと思った。被災者の人が、勇気をもらったように、全校にぼくたちの演奏で、全校が勇気をもらえるように演奏したい」「思いが伝わる優しい感じで演奏したい」等、曲に対して、児童は思いを膨らませることができた。また、発言が少ない児童も、自分たちの演奏を録画して見たことや聞こえてきた音に対しての感想は、進んで発言する姿が見られた。自分たちの練習の成果を客観的に聞くことで課題が明確になり、自信を持って演奏に取り組む姿が見られた。



このような子どもたちに、古くから歌い継がれている日本の歌曲を、作曲家の人物像や育った故郷などを新聞記事や映像等で知ったり、どのような場面で歌い継がれているかを知ったりすることを通して、曲の理解を深め日本の歌の良さを感じるようになってほしいと考えている。また、新聞記事を家族と一緒に読んで感想を話し合ったり、友だちと一緒に読んだりすることを通して、どのような場面でどんな歌が歌われているかを知ったり、曲の作者や曲が作られた背景を知ったりしてどんなふうに歌いたいと考えてほしい。そして、思ったことや感じたことの情報交換を通して、友だちの考えを知り、対話しながら共に音楽を作り上げる楽しさ、表現する楽しさを感じてほしいと考えている。自分たちが大切に歌いたい言葉や盛り上げて歌いたいところを中心に練習した歌声を録音し、聞き比べることで、自分を振り返り、次への成長につなげてほしいと願っている。そして、自分たちの生活と重ね合わせながら、歌をより身近なものとして感じ、音楽を楽しんでほしいとも願っている。



3 題材の目標

①歌詞と旋律との関わりが生み出す曲や演奏の良さなどについて話し合ったり、曲想を味わいながらどのように歌うかについて発表し合ったりする活動を通して、詩と音楽の関わりへの興味・関心を深める。

【音楽への関心・意欲・態度】

②歌詞と旋律が一体となって生み出す曲想を味わって、曲や演奏の良さを見いだしながら聴いたり、歌詞や曲の特徴について考えながら歌い方を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持ったりする。

【音楽表現の創意工夫】

③旋律、強弱、音の重なりなどと曲想との関わりを理解して、日本語の美しさを生かして歌うために必要な、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。

【音楽表現の技能】

4 題材の評価基準

題材の評価基準		
知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思・判・表）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<p>①曲想及びその変化と、声の音色や合唱の響きの違いについて、聞き分けている。</p> <p>②曲想と歌詞の内容、旋律の特徴、強弱、音の重なり、変化との関わりを知り、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌おうとしている。</p>	<p>①曲想及びその変化と、歌詞の内容や速度、旋律、強弱、音の重なりとの関わりについて考え、曲や演奏の良さなどを見だし、日本の歌の詩や旋律の美しさ、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>②歌詞の内容や旋律の特徴、強弱、音の重なり、変化を聞き取りそれらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を考え、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。</p>	<p>①言葉の感じと旋律の関わりに興味・関心をもち、日本の歌を聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p> <p>②人々が大切にしてきた歌を味わい、詩と言葉の関わりに興味・関心を深め、友だちと協働して、曲の特徴にふさわしい表現を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

5 題材の指導計画（7時間扱い）

	主な学習活動	主な教師の関わり
第一次	<p>～滝廉太郎～</p> <p>①ねらい 日本の代表的な歌『花』を聴き、歌詞の大意を捉え、旋律と一緒に表現される美しさについて、感じながら聴く。</p> <p>②ねらい 『荒城の月』の曲のイメージ映像を見て、歌われている様子を想像し、合唱の演奏形態の違いによる日本の歌を聞き比べ、演奏形態の違いによる歌の魅力を感じ取り、自分が大切にしたい言葉について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・滝廉太郎について理解を深められるように、新聞記事や映像を紹介する。 ・滝廉太郎の歌を取り上げている新聞記事を家族や自分で読み、歌に思いを寄せさせる。 ・歌詞を生かした映像を見せて、イメージを持てるようにする。 ・旋律線を生かして、自分が大切にしたい言葉に印を付けて願いを持って歌えるようにする。
第二次	<p>～高野辰之～</p> <p>①ねらい 『故郷（ふるさと）』の曲の映像や新聞記事等から曲のイメージを膨らませ、歌詞の表す情景や気持ちを想像し、自分が大切にしたい言葉や歌い方について考える。</p> <p>②ねらい 『故郷』の1番の様子が伝わるように、グループごとに強弱等を考えて練習したり、聴き合ったりして、曲の様子が伝わるように工夫して歌うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高野辰之についての新聞記事を使って作者について考えさせたり、ユーチューブで景色や合唱等を見聞きさせたりし、曲が表している景色や様子についてイメージを持てるようにする。 ・自分は、どの言葉を大切に、どんな感じに歌いたいのか考えさせる。 ・高校生が書いた新聞の投稿から、人が故郷や『故郷』の曲に寄せる思いや自分の思い、歌詞について考えさせる。

	主な学習活動	主な教師の関わり
第二次	<p>③ねらい 『故郷』の2番の様子が伝わるように、グループごとに強弱等を考えて練習したり、聴き合ったりして、曲の様子が伝わるように工夫して歌うことができる。</p> <p>④ねらい (本時) 新聞記事から『故郷』の曲や自分の故郷に寄せる友だちの思いを知る。そして、グループごとに『故郷』の曲に思いを寄せながら、3番の特に大切に歌いたいところを中心に、一人一人が考えた強弱等の工夫を試しながら追究する。代表のグループの歌声を聞き合い、最後に、スライドショーを見て自分たちの故郷と重ね合わせて、思いを込めて1番から通して歌う。</p> <p>⑤ねらい 家族や地域の人にインタビューしたこと等を発表し合い、音楽が人と人をつなぐことを感じたり、自分たちの表現への思いや工夫を見直して歌ったりする。『しあわせ運べるように』を鑑賞する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長野オリンピックの閉会式で歌われた映像を見せて、どんな場面でどんな気持ちで人々が歌っていたか考えさせる。 ・1～3番への願いや思いを相談させる。 ・個人の考えを反映させやすいように、大切に歌いたい言葉が似ている児童ごとのグループをつくらせ、強弱等の工夫を考えて歌えるように確認する。 ・グループごとの練習。 ・強弱、テンポ等、表現の要素を確認し、張り出す。 ・大切に歌いたい言葉は少し強めに歌ったり、気持ちを込めた時に、だんだんゆっくりにして歌ったりして違いを考え、最後はみんなの前で発表させる。 ・高校生が書いた新聞の投稿を読んだ友だちの感想を聞かせ、『故郷』の曲や自分の故郷へ思いを寄せるように働きかける。 ・グループごとに強弱等の工夫を考えて練習し、お互い聴き合うように指導する。 ・代表のグループの歌声を聞く場面を作る。 ・スライドショーを見ながら自分の故郷に思いを寄せて『故郷』を歌うようにさせる。
第三次	<p>⑥ねらい 『故郷』を自分たちの表現への思いをこめて歌ったり、『しあわせ運べるように』を鑑賞し、音楽が人と人をつなぐことについて考えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二部合唱のパートを覚えさせ、二部合唱で歌わせる。 ・「音楽が人と人をつなぐ」ことを感じた子どもたちに、阪神淡路大震災の復興についての新聞記事を紹介し、復興の歌『しあわせ運べるように』を鑑賞できるようにする。

6 本時案

①主 眼

『故郷』の歌への思いをもった子どもたちが、グループごとに強弱やテンポ等の工夫を試

しながら歌うことを通して、表現したい思いが伝わるように『故郷』を歌うことができる。

②本時の位置 7時間扱い中の第6時

③指導上の留意点

- ・新型コロナの感染予防の点から、マスクを着用したまま歌う。
- ・音楽の時間が取れない時には、自学の時間を生かして新聞を読み、感想を持てるようにしておく。
- ・グループ学習では、自分の考えや友だちの考えを聞いたり、歌いながら工夫について考えたりするように声をかけていく。

④展 開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	時間	指導・評価☆
導 入	①『故郷』を歌う。『故郷』に寄せる思いが書かれている新聞記事を読んだ友だちの感想を聞く。	・様子を思い浮かべながら歌いたいな。	2	○児童の様子が分かるようにCD伴奏を使う。
	②<学習問題>	・「ふるさと」という言葉で自分が生まれた故郷と高野辰之の『故郷』を思い浮かべている人がいるんだな。	5	○新聞記事を自学の時間に読み、感想をそれぞれまとめておくように指示する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">『故郷』を、グループの表現したい思いが伝わるように、歌い方を考えて歌おう。</div> ③思いが伝わるには、どんな歌い方の工夫があるか確認する。	・強弱があるな。 ・テンポも工夫できるな。	5	○強弱・テンポ等の表現の工夫の要素について確認しやすいように掲示しておく。
展 開	< 学習課題 > <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">強弱や、テンポなどを考えて歌おう。</div> ④グループごとに一人一人の意見を試しながら追究する。	・この言葉大切にしたいな。 ・声をだんだん大きくして歌えるといいなあ。 ・最初の音を良く聞いて歌ってみよう。 ・だんだん大きくなるように歌えているか聞いてね。 ・盛り上げたいところはどうか。	8	○特に表現したい段を中心に表現の工夫を考えるように伝える。 ☆表現の工夫を考えるための表現の要素について確認できたか。 ○グループごとに、表現したい願いや練習の様子を確認しながら、良さを認めたり、励ましたりしていく。

終末	<p>⑤音楽室に戻り、いくつかのグループの歌声を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとを思う感じが伝わるかな。 ・盛り上げて強くなるところが良かったな。 ・強く歌っているところが、言葉がはっきりと聞こえてきて良かった。 ・だんだんゆっくりと歌っているところが、良かった。 ・～がだんだん強く歌えていて良かったな。 ・～な感じがしたよ。 	10	<p>○いくつかのグループの発表を、聞く観点を確認してから聞くように伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆表現したい願いをもって、強弱やテンポの変化等を工夫して歌っているか。</p> </div>
	<p>⑥スライドを見ながら、『故郷』を1番から3番まで歌う。</p> <p>⑦本時の学習を振り返り、学習カードにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新町の景色だね。 ・私たちの故郷だね。 ・特に～の所を、気持ちを込めて歌えたよ。 ・みんなで歌えて良かった。 ・～のところを、大きく歌えて良かった。 		10

(6) 成果と課題

今回の授業を構想するにあたり、最初は、新聞記事の内容が難しいのではないかと、小学6年生が大人の気持ちを知って、どのように受け取ることができるのかなど、悩みながらのスタートだった。音楽専科の授業でもあったので、学級担任とも連絡を取り合い、信濃毎日新聞社の方の出前授業による新聞記事の読み方の学習も取り入れてもらったりして、音楽の授業だけでなく、カリキュラムマネジメントの視点からも学習を構想していった。

児童が毎時間書いた感想や学習の様子の中から分かってきたことが、大きく分けて二つある。まず一つは、新聞記事から客観的な情報を多く得られるということ、二つ目は、色々な年代の方の考えを知ることができるということだった。

『故郷』の学習では、1番2番3番を分けて、毎時間、新聞記事から得られた情報を基に、思いを込めた歌い方についてグループごとに考えて、歌う経験を積み重ねていった。1・2番を学習するときには、作詞者高野辰之の親戚の方の記事を、半分ずつに分けて取り上げた。2番では、「『父母（ちちはは）』の歌詞から、辰之にとって故郷とは、父母のことではないか」という親戚の方の考え方を知った児童は、「自分にはない考え方だったので、そういう考え方もあるんだと知った」「私も、お父さんお母さんを思い浮かべて歌いたい」といった感想や思いを持つことができた。そして3番では、児童は新聞の読者投稿欄に載った高校2年生の文章を読んだ。高校生は、地元を離れるかもしれない今、『故郷』の曲を思い出しながら、自分の故郷に寄せる思いを書いていた。児童の多くが筆者に思いを寄せなが

ら、自分と置き換えて、自分だったらどうするか考え、自分たちの故郷や家族に対しての思いを膨らませることができた。本時では、故郷「信州新町」の写真や自分たちの「修学旅行」等の写真のスライドショーを見ながら、1番から3番まで通して、自分たちの故郷を思いながら歌うことができた。課題として、授業の最初に新聞記事を読んだ児童の感想の発表場面があったので、最後の振り返りの中で、新聞記事の良さについて触れる場面を作れば良かったと考えられる。これからも、教材として日々音楽等についての記事も集めながら、授業に生かしていきたいと思う。

2014年7月19日付毎日新聞を使った学習シート

父母への思い 歌詞に

田家制度の下、苦惱した高野辰之

6年 名前

2018年9月18日付 信濃毎日新聞

大切な故郷 守っていききたい

建設標